

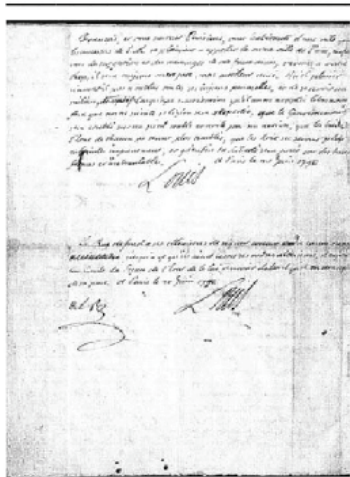
社 会

フランス革命とテロリズムについて考える

年 組 番 氏名

【取り組みのねらい】

1789年のフランス革命・ジャコバン派の恐怖政治がテロリズム（テロ）の始まりだそう
うだ。2013年のアルジェリアの人質事件と恐怖政治をテロリズムの観点から結び付け
考察してみよう。また、県内の国際テロに直面した方々の記事を読み、テロについて考
えてみよう。



米国で発見されたルイ16世の遺言書。末尾に「ルイ」の署名がある(アリストフィル社提供・共同)

【パリ20日共同】フランス革命で処刑されたルイ16世(一七五四―一七九三)が、一七九一年、パリをひそかに逃れ、バレンヌで逮捕される直前に書いた政治的遺言書「すべてのフランス

ルイ16世、逮捕直前に執筆 行方不明の遺言、米で発見

直筆の原本は行方が分からなくなっていた。発見したフランスの研究者らは「歴史の鼓動を伝える第一級の史料」としている。遺言書は十六日、逃亡の理由を説明するとともに、国民に向けて「(革命派の)誤った友人たちを信用してはならない。国王の元に戻りなさい。王は常にあなたがたの父であり、最良の友人である」と呼び掛け、自らが目指した立憲君主制の正しさを説いている。ルイ16世の遺言は、一七九三年の処刑直前にタンブル塔で書かれたものが有名だが、今回見つかったのはこれとは別。

【設問】

☆フランス革命時の王、ルイ16世はどうなったのか。教科書等を見て、革命の経過を以下にまとめてみよう。

1789年
1791年
1792年
1793年
1794年

☆左の記事中の国王の言葉(3段目)をどう思うか。

☆テロリズムとは何か。確認しよう。

フランス革命時の、ジャコバン派の恐怖政治がテロリズムの始まり。
テロル=恐怖(仏語)。テロリズムとは政治的目的をもって実行される暴力のこと。
本来は体制側からの抑圧を指す言葉。

(平成16年(2004年)5月16日 朝日新聞「言葉の交差点」より)

☆アルジェリアの人質事件記事の中から考えよう。

(1) 事件のあらまし

(2) どんな人たちが実行犯だったのか。

(3) テロを生み出す背景は何か (5～6段目にかけての内容に注目)。この状況をどう理解すればいいのだろうか。

☆「9.11」以降、テロのニュースを聞かない日はない。県内でも関係者がいる。

以下の記事を読みテロを克服する方法を考えてみよう。

大胆犯行 世界に衝撃



17日、アルジェリアで拘束された社員などの状況について記者会見で音米ミルワネのミルワネ社長兼最高経営責任者(C.E.O.)(ロイター共同)

日本	30～50人
米	3～7人
英	2～5人
フランス	1～2人
ブルウェ	13人
マレーシア	2人
アイスランド	1人
オーストリア	1人
韓	人数不明
フィリピン	人数不明

検証 アルジェリア人質事件

武装勢力、周到に計画

日本外務省発表によると、アルジェリア人質事件は、武装勢力「イスラム国」が周到に計画された。事件は、アルジェリアの首都アルジェラで発生した。イスラム国は、この事件を通じて、国際的なテロ活動のネットワークを強化しようとしていると見られる。

表層 深層

対テロ妥協拒否、軍が急襲

アルジェリア軍は、武装勢力の拠点を急襲した。この行動は、対テロ妥協を拒否する姿勢を示している。また、国際社会は、テロの撲滅に向けて協力している。この事件は、世界に大きな衝撃を与え、テロ対策の重要性を改めて認識させた。

平成25年(2013年)1月18日(金曜日) 朝刊

※最近のテロは、反体制側から、体制側への暴力になっている。

故伊藤和也さんの母順子さん(母)

息子の志思い起こす日

故伊藤和也さんの母、順子さんは、息子の志を思い起こす日。和也さんは、テロに巻き込まれ、犠牲になった。母は、息子の志を継ぎ、社会のために貢献したいと願っている。

和也さんは、学生時代にテロに関与した。母は、息子の志を思い起こす日。和也さんは、社会のために貢献したいと願っている。



アフガニスタンで戦場に落ちた平海兵隊員(兵士2009年撮影) (A.P.共同)

アフガン復興支援 レシャードさん(島田)

子どもが夢抱ける国を

アフガニスタンの復興支援に取り組んでいるレシャードさん。子どもたちが夢を抱ける国を築きたいと願っている。



カブールの貧民窟に暮らす子どもたち。レシャードさんが訪問した小学校で、子どもたちに語りかけるレシャードさん(1月2日、アフガニスタン・カンダハル州) (レシャードさん提供)

【学習の効果】

世界史は日本史と比べ、中学校での学習内容が少なく、また生徒にとっては、「遠い国の昔の話」と感じ、近寄りづらい科目だろう。遠い国の〈過去〉=教科書の内容と、〈現在〉=新聞記事を行き来し、少しでも自分たちの身近な問題として世界史をとらえさせたい。新聞記事を使うことで、「現実の世界」を持ち込んだ学びへと発展し、学習意欲が高まると感じている。

静岡銀行・新谷さん、神谷元会長

苦難あってこそ今日



静岡銀行の代表取締役社長、新谷さん(左)と元会長、神谷元さん(右)。静岡銀行は、苦難を乗り越え、今日まで成長してきた。新谷さんは、元会長の志を継ぎ、銀行の発展に貢献したいと願っている。

9.11 私の10年

米中樞同時テロ 県内関係者の今

ニューヨークの世贸貿易センタービルなどに航空機が突っ込み、約3千人の命を奪った9月11日(米国同時テロ)。世界を震撼させた事件から10年が経過する。今年9月には米大統領がテロの首謀者オサマ・ビンラディン容疑者の処刑を免罪し、失態な面目を露わした。ただ、テロに直面した人々の心は切りはれない。テロがもたらした困難の中で内閣や国民の平和を求めた人々の足しめは絶たない。人生をほんとうに変わった経験者たちが「9・11」10年を振り返る。



9.11同時多発テロ発生当日、ニューヨークの街を走る消防士たち(米共同)

消防士らの心理ケア 山本さん(藤原)

心に寄り添う意味実感

消防士たちの心理ケアに取り組んでいる山本さん。心に寄り添う意味を実感している。



消防士らの心理ケアに取り組んでいる山本さん(藤原)

【指導上の注意、課題】

テロリズム(テロリスト)は政治的意図をもって呼称される。立場によってとらえ方が違う客観的な定義が困難な言葉であることに留意が必要と思う。

平成23年(2011年)9月10日(土曜日) 朝刊

コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。